

2026年6月5日

報道関係各位

行政や地域社会、金融機関、研究拠点などが連携を通じて地域振興を目指す

## 熊本県あさぎり町における 地域包括連携協定を5者間で締結

町花「リュウキンカ」が自生する「丸池」を中心とした湧水生態系や自然環境の保全へ

株式会社ツムラ（本社：東京都港区、代表取締役社長 CEO 加藤照和、以下「ツムラ」）は、熊本県あさぎり町の「丸池」およびその周辺地域の自然環境の維持・向上および地域振興を目的に、株式会社肥後銀行（本店：熊本市中央区、取締役頭取 笠原慶久、以下「肥後銀行」）、熊本県あさぎり町（以下、あさぎり町）、一般社団法人球磨川 NP、流域治水を核とした復興を起点とする持続社会地域共創拠点（以下、「共創の流域治水」）の5者間で、地域包括連携協定を締結したことをお知らせします。

### ■ 協定締結の目的と具体的な取り組み

本協定は、あさぎり町の町花であるリュウキンカが自生する町内の「丸池」を中心とした湧水生態系や自然環境の価値を将来にわたり維持・向上させるとともに、環境教育や情報発信などを通じて地域振興につなげようと、行政や地域団体、金融機関、研究・実践拠点等などが、相互に連携・協働して取り組むもので、具体的な取り組みは以下のとおりです。

- ・丸池および周辺地域における調査・活動の実施
- ・湧水生態系およびリュウキンカの保全活動
- ・湧水保全や地下水涵養を目的とした取り組み
- ・環境教育、情報発信、地域連携等を通じた地域振興
- ・自然共生サイトへの登録

### ■ あさぎり町の丸池について

丸池は、地域を代表する自然資源の一つであり、湧水生態系や希少な動植物の生息・生育環境として重要な役割を果たしています。長年にわたり、町や地域住民による継続的な保全が行われてきましたが、近年は気候変動等の影響により湧水が減少し、リュウキンカを含む生態系は危機的な状況に直面しています。



丸池に生息しているリュウキンカ

自然と健康を科学する

### お問い合わせ先

株式会社ツムラ コーポレート・コミュニケーション部 広報課 担当：林・吉崎

〒107-8521 東京都港区赤坂 2-17-11 TEL.03-6361-7100 [shuzai@mail.tsumura.co.jp](mailto:shuzai@mail.tsumura.co.jp)

丸池の価値を中長期的に維持、向上させるためには、専門的な知見や、地域に根差した活動、関係者間で協働し、継続的に関わっていく体制づくりが求められてきました。

### ■協定締結の背景

熊本県は当社が扱う漢方製剤の原料となる生薬の主要産地の一つで、あさぎり町は、原料生薬である柴胡（サイコ）の国内最大の調達先です。また、人吉球磨地域における生薬供給の要である「あさぎり薬草合同会社」があることなどからも、当社とは深い関わりがあります。こうした地域とのつながりを背景に、当社では生薬生産を支える自然環境の保全や、地域と連携した取り組みの可能性を模索してきました。

一方、肥後銀行は、熊本市に本店を置く地方銀行として、地域経済の発展と持続可能な地域社会の実現を目指し、環境保全や地域振興に関わるさまざまなサステナビリティ活動を展開してきました。また、「共創の流域治水<sup>※</sup>」において幹事機関を務めており、これまで丸池における調査や保全活動に参画してきました。そうした背景から、かねてより当社と肥後銀行では、それぞれの立場から地域の自然環境や将来に対する課題意識を共有し、丸池の保全と地域振興を両立させる形を検討し、このたび、行政、地域団体、金融機関、企業、研究・実践拠点が相互に連携し、生態系保全活動および地域振興に取り組むための枠組みを整備し、協定締結に至りました。

※共創の流域治水について：<https://www.midori-lab.pu-kumamoto.ac.jp/>

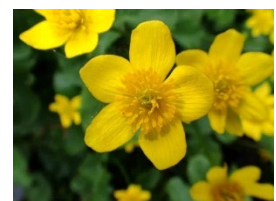
当社では、本協定を通じて、生薬産地の自然や産業、歴史の維持、発展への貢献を目指すとともに、将来にわたる地域の Well-being を実現すべく、地域保全や教育活動など、さまざまな取り組みを進めていきます。

以上

(参考)

### ■リュウキンカについて

湿地や水辺に生育するキンポウゲ科の多年草で、春先に鮮やかな黄色い花を咲かせます。あさぎり町の町花に指定されており、「丸池」地区が国内における自生地の南限とされています。地域の象徴的な花であるリュウキンカは現在、気候変動や自然環境の悪化などにより、生息が危ぶまれている希少植物です。



### ■ツムラのサステナビリティに関する取り組み

当社グループの事業は、原料生薬の栽培から製造・販売に至るまで、自然環境と深く結びついた漢方バリューチェーンによって成り立っており、生物多様性や自然資本の保全は、事業基盤を支える重要な要素の一つです。このような考えのもと、ツムラは生薬産地・生産拠点を中心に、自然環境保全や地域振興に資する取り組みを進めています。詳しくは下記をご覧ください。

(ツムラ HP「サステナビリティについて」：<https://www.tsumura.co.jp/sustainability/>)